

平成31年度「狛江市学習状況調査」の結果 及び 平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果（小学校）

調査実施日
平成31年4月12日（金）

調査の目的

- ◇ 年度当初に児童の学習状況を把握し、児童の学力を把握・分析する。
- ◇ 分析結果を基に日々の授業改善を行い、児童の学力向上に資する

狛江市学習状況調査

調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
小学校	第5学年	国語、算数	40分間、配布と回収を含め1単位時間（45分）を充てる。	577人
	第6学年	国語、算数		553人

「狛江市学習状況調査」第5学年の結果（大領域別集計）

第5学年	部	内 容	正答率	全 国 正答率	全国比 (95年=100)	全国正答率との比較	
						低い	高い
国語	1	話すこと・聞くこと	62.7	59.3	106		
	2	書くこと	48.2	43.8	110		
	3	読むこと	46.9	40.7	115		
	4	伝統的な言語文化と国語の特質	70.6	65.3	108		
算数	1	数と計算	65.1	60.0	109		
	2	量と測定	61.1	60.7	101		
	3	図形	61.0	52.1	117		
	4	数量関係	68.8	64.4	107		

第5学年

昨年度同様、全教科・全内容で正答率は全国平均を上回っており概ね良好な結果と言えます。

国語「書くこと」、「読むこと」では全国平均を大きく上回っています。「話すこと・聞くこと」については、中領域「話の中心に気をつけて聞くこと」、「話題に沿って話し合うこと」では全国平均を上回っている一方、「目的に応じて話すこと」については全国平均を下回っており、課題となっています。

算数「数と計算」、「図形」では全国平均を大きく上回っていますが、「図形」の中でも「面積」、特に「面積の単位換算」については、昨年度同様、全国平均を下回り、引き続きの課題となっています。

「狛江市学習状況調査」第6学年の結果（大領域別集計）

第6学年	部	内 容	正答率	全 国 正答率	全国比 (95年=100)	全国正答率との比較	
						低い	高い
国語	1	話すこと・聞くこと	72.5	72.5	100		
	2	書くこと	72.9	66.4	110		
	3	読むこと	59.6	55.3	108		
	4	伝統的な言語文化と国語の特質	58.9	55.3	107		
算数	1	数と計算	59.1	55.2	107		
	2	量と測定	56.9	50.0	114		
	3	図形	69.8	61.9	113		
	4	数量関係	61.6	54.0	114		

第6学年

全教科・全内容で正答率は全国平均の同等か上回っており概ね良好な結果と言えます。

第5学年同様、国語「書くこと」では全国平均を大きく上回っています。「話すこと・聞くこと」については、中領域「組み立てを工夫して話すこと」、「話し手の意図を考えて聞くこと」については全国平均を上回っている一方、「意図・立場を明確にして話し合うこと」については全国平均を下回っています。

算数は「量と測定」「図形」「数量関係」については、全国平均を大きく上回っていますが、「数量関係」の中の「比例」は、「比例」という算数用語の意味理解に関する問題の正答率が全国平均を下回っています。

調査実施日
平成31年4月18日（木）

調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇ 取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
- ◇ 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

全国学力・学習状況調査

調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
小学校	第6学年	国語、算数	調査する学年の前学年までに含まれる指導事項 45分間（準備・回収含めない）	551人

昨年度の調査、国語及び算数の主として「知識」に関する問題（A問題）は合わせて1単位時間、国語及び算数の主として「活用」に関する問題（B問題）はそれぞれ1単位時間として実施しました。

今年度の調査では、従来のA問題とB問題を統合し、基本的な事項から問題解決までを一体的に問う形式となりました。

出題内容は、次のとおりです。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

「全国学力・学習状況調査」第6学年の結果

国語	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都 (公立)	全国 (公立)	都比	全国比
全体	67	65	63.8	2.0	3.2
話すこと・聞くこと	75.1	73.1	72.3	2.0	2.8
書くこと	52.5	55.4	54.5	-2.9	-2.0
読むこと	84.3	83.0	81.7	1.3	2.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.1	55.7	53.5	3.4	5.6

全体としては、東京都の平均を2%、全国の平均を3.2%上回りました。「話すこと・聞くこと」、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、においても東京都の平均を1%以上、全国平均を2%以上、上回りました。特に「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題においては、東京都及び全国の平均を大きく上回っています。

一方で「書くこと」については、東京都の平均を2.9%、全国の平均を2%下回っています。特に「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」問題については、東京都及び全国の正答率を約2%下回るとともに、正答率が26.5%と、課題となっています。

「書くこと」について、「狛江市学習状況調査」では1つの資料を基に回答する問題、「全国学力・学習状況調査」では複数の資料を活用する問題でした。複数の資料であっても、事柄を整理して伝える等の指導が必要であると考察されます。

算数	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都 (公立)	全国 (公立)	都比	全国比
全体	69	70	66.6	-1.0	2.4
数と計算	65.6	66.7	63.2	-1.1	2.4
量と測定	57.5	57.5	52.9	0.0	4.6
図形	78.5	79.0	76.7	-0.5	1.8
数量関係	73.4	72.7	70.1	0.7	3.3

全体として、東京都の平均を1%下回りましたが、全国の平均を2.4%上回りました。「数量関係」以外は、東京都の平均と同等か、やや下回りましたが、全ての領域において全国の平均を上回りました。

「数と計算」の「計算の仕方についてまとめる」という問題については、東京都及び全国の平均は上回っているものの、正答率は34.2%と課題となっています。

「狛江市学習状況調査」、「全国学力・学習状況調査」ともに全国平均は上回っているものの、思考力・表現力を要する課題の解決に向けては、課題解決的な学習に取り組んでいく必要があると考察されます。